

2019年度（令和1年度）

社会福祉法人あさみなみ事業報告

基本的な方針に対する総括

法人の内部固めと今後の在り方を検討することを柱として取り組みを進める1年と位置付けます。

総括

法人の内部固めを大きな柱と位置付けた年でしたが、年度当初から職員の大量な退職、また年度中途でも散発的な退職者が生じたことにより、十分な組織強化に取り組むことができませんでした。むしろ欠員を補充する事に力を注ぐ形となってしまったのが悔やまれる1年でした。一方で今後の法人の在り方の検討については、利用者の急逝や高齢化に伴う諸問題が急激に顕在化し、高齢期を迎える障害者の介護・看取りへの対応が法人課題として強く提起される年ともなりました。「このまちで活きる」ことを主要な支援課題としてきたあさみなみにとって「このまちで生きる」ことへの支えをどう創ればいいのか問いかけられた1年でした。

1、安定した運営と安心して利用できる法人の力・体制を作り上げるための取り組み

(1) 人材の確保と育成

あさみなみの理念に基づく職員行動綱領の成文化を行い、その草案に基づく職員間討議を行いました。最終的な綱領にはいたっていませんが、次年度当初には確定できるところまで作業を進めることができました。

オンデマンド研修を全体職員会議の一部として組み込み、職場でのコミュニケーションの取り方や福祉現場でのチームの創り方などを学び福祉職員としての基礎を身に着けることに力を注ぎました。またさまざまな階層別・問題別研修に職員を派遣し、福祉職員として社会動向の把握や障害福祉問題の理解学習を促し、人材の育成に努めました。

退職者が多かったことにより、職員の構成も大きく変わることとなりましたが、比較的順調に欠員の補充ができ、かつ国家資格を有する複数の職員も確保できることから、質的にも劣らない体制をとることができました。

(2) 利用者・職員の安全を確保するための取り組み

大型台風により風水害が頻発する年となりましたが、それらに対応するため浸水防止の土嚢を100袋確保し、その積み上げ訓練を2回実施しました。また施設周辺を監視し、不審者の侵入や利用者の飛び出しを早期に察知する防犯カメラの設置を行いました。

2、法人あさみなみのこれからの中長期目標を見出す年とします。

中期 5 か年計画での一定の成果を踏まえ、その後顕在化してきた様々な問題への対応を検討するため、第 2 次将来構想計画への着手を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により具体的な動きを開始する事ができませんでした。感染症との兼ね合いもありますが 2020 年度早期に委員会を立ち上げ、5 年後・10 年後のあさみなみの姿を描きだすことが必要です。とりわけ法人機能の維持・強化のため、次世代リーダーの育成計画や利用者・家族の高齢化に伴う法人機能の在り方についての構想づくりは喫緊の課題となっています。

3、利用者からの要望や意見・苦情に対応していくために人権擁護委員会を創設し、利用者の人権擁護に努めます。また必要な利用者への後見制度の活用を進めます。

人権擁護委員会の設置についてはその権限や適職者の選任等の調整がつかず、進展していません。後見制度の利用についても、利用者家族への啓発に留まり、具体的な進展はありませんでした。制度・手続きの複雑さなど後見制度そのものの改善も求めていく必要があります。

4. 国の情勢をとらえながら社会福祉・社会保障、障害者施策の発展を目指し取り組み、地域や関係団体と連携をとりながら活動していきます。

浅田裁判の活気的な判決を受け、介護保険優先原則の見直しと総合支援法 7 条の廃止を求める運動に HDF・きょうされんに参加する形で取り組みました。抜本的な見直しはこれから課題となります。介護給付である生活介護の 65 歳以降の利用もケースによって認められる等徐々に運動の成果も見え始めています。

1. 各種会議

(1) 評議員会 2 回開催

第 1 回定期評議員会

月日	決議事項
6 月 25 日	平成 30 年度事業報告の承認
	平成 30 年度計算書類・財産目録の承認
	理事の任期満了に伴う選任
	監事の任期満了に伴う選任

第 2 回

月日	決議事項
3 月 14 日	令和 1 年度一般会計予算の一部補正の承認
	令和 2 年度事業計画・一般会計予算の承認
	役員報酬規程の改定

(2) 理事会 6回開催

第1回

4月24日		決議事項
		任期満了に伴う次期理事候補の推薦
		任期満了に伴う次期監事候補の推薦
		職員就業規則の一部改定

第2回

6月11日		決議事項
		平成30年度事業報告の承認
		平成30年度貸借対照表等決算諸表の承認
		定時評議員会の招集・審議事項の決定

第3回

6月25日		決議事項
		理事長の選任
		業務執行理事の選任

第4回

8月6日		決議事項
		車両事故による全損処理と後継車両の購入
		アンダンテ管理者の退職とその後任の選任

第5回

12月9日		決議事項
		理事報酬規定の一部改定
		19号台風 20号台風等による被災地支援の在り方

第6回

3月10日		決議事項
		2019年度第1次補正予算案について

	2020 年度事業計画案の策定について
	2020 年度一般会計予算案の策定について
	2020 年度事業所長等の主要人事について
	感染症等への対応に係る就業規則の改定について
	評議員会の開催中止と文書同意による決議への変更について

- (3) 監事会 6月 6～11日
- (4) 施設長事業所長会議の定例開催（毎週火曜日）
- (5) 全体職員会議の開催（毎月第3水曜日 15時15分～17時15分）
- (6) 各種部会の定期的開催
仕事部会 資金後援会部会 広報部会 仲間部会 研修部会といった分野別部会を職員全体で役割分担して構成し、それぞれの課題ごとに調査・研究に基づいた企画を立案してきました。各部からの総括も後半で記載します。
- (7) 健康づくり *集団健康診断 10/2
*インフルエンザ予防接種 11/21
- (8) 権利擁護のための取り組み
Iさんの身上監護部分での後見活動・財産管理等を担う後見人弁護士との調整
利用者の生活支援について暮らしサポートセンターと弁護士との調整
- (9) 後援会活動の支援と運動への協力
後段の後援会事務局部会の報告で総括します。
- (10) 利用者自治会の早期結成に向けて支援
後段の仲間部会報告で総括します。
- (11) 広報活動の展開 法人広報紙「あさみなみんな」を季刊として発行しました。具体的な総括については、後段 広報部会報告で行います。
- (12) 防災訓練
6月2日 浸水被害に備えて土嚢積み訓練
10月28日 避難訓練

2. 研修活動

流動する情勢に迅速に対応するため、また、障害についての理解や発達を支援する理論・技術を学ぶため、研修活動を実施しました。

[職員研修]

(1) 資格取得研修

8月 7.8日	相談支援従事者初任者研修 (5日)	3名
	(2日)	1名
9月	サービス管理責任者研修	3名
9月 11.12日	強度行動障害支援者研修	1名
12月 17.18日	サービス管理責任者更新研修	2名

(2) 派遣研修

4月 25日	事務担当者研修	2名
6月 12日	会計セミナー	1名
6月 29.30日	きょうされん中国ブロック研修 (岡山) 精神障害者支援の技法	3名 1名
7月 8.9日	防災研修	1名
7月 18日	市社協新任職員研修	3名
7月 23日	働き方改革セミナー	2名
10月 25.26日	きょうされん全国大会 (名古屋)	4名
1月 8日	リスクマネジメント研修	1名
1月 24.25日	きょうされん経営管理者研修(神戸)	3名

(3) 全体職員研修

月日	内容	チユーター等
9.28	「星に語りて」鑑賞と 防災活動	DVD 鑑賞と グループ討議
3.28	実践報告会	スーパーバイズ 元山淳氏

オンデマンド研修(全体職員会議の一環として実施)

月日	内容	
9/19	社会人の基本	30分

10/16	強味を活かす	45分 ワークあり
11/20	チームワークの高め方	45分 ワークあり
12/18	聴く技術	45分 ワークあり

(4)新任職員研修

下記内容を新規採用職員に対して4月9日~30日の日程で実施しました。

4月9日	就業の心構え・就業規則・給与/あさみなみの理念 オンデマンド 社会人のルール
4月13日	障害者運動の意味と歴史 オンデマンド 報・連・相
4月14日	あさみなみの成り立ちとめざすもの オンデマンド コミュニケーションの取り方
4月30日	社会福祉法人の会計
4月23日	社会保障の仕組み
4月23日	障害者福祉の仕組み

(5)職場研修 職場内でミーティング等の機会を通して日常的な研修実施

(6)研修への職員派遣 関係団体等の要請に応じて講師・スタッフを派遣

3. 事業活動

あさ作業所 生活介護事業 定員20名 (実利用者24名)

就労継続B事業 定員10名 (実利用12名)

工房とも 就労継続支援B事業 定員20名 (実利用者16名)

アンダンテ 就労継続支援B事業 定員20名 (実利用者31名)

かろかろ 生活介護事業 定員20名 (実利用者33名)

せせらぎ 短期入所事業 定員3名

サポートセンターあしたば

居宅介護事業／移動支援事業／重度訪問介護事業

ホームあたた 共同生活援助 定員 19名（男子12 女子7名）
生活支援センターあさみなみ 委託相談支援事業
指定一般相談支援事業
指定特定相談支援事業
指定児童相談支援事業

4、障害者福祉・社会福祉をすすめるための取り組み

障害者福祉や社会福祉を高め、守っていくため関係者間の連携を深め、共通理解を高めながら、問題点を社会化していくこと、施策の公的な実施を求めていくことに努めました。

- (1) きょうされん広島県支部に参加しての取り組み
役員1名 運営委員に4名が着任 各部会委員会活動に取り組みました。
役員会 6回 運営委員会3回
- (2) きょうされん広島北ブロックに参加しての取り組み
国会請願街頭署名活動 3.17 緑井天満屋周辺
「星に語りて」上映会を2/29実施予定でしたがコロナ感染症防止のため中止となりました。
ブロック会議 月1回 加盟事業所を巡回して開催
- (3) 仲間の会への参加支援 虹の会への参加
- (4) 広島障害フォーラムに参加しての取り組み
介護保険優先問題についての対応・運動
障害者差別解消条例の策定に向けての運動

5、地域との交流活動・地域での障害者理解の促進

- (1) 主催しての交流行事
春のくれよん祭り
4.20 10:00～14:00
くれよんマーケット周辺で開催
夏おくりまつり
9.7 16:00～19:30 本部棟周辺で開催
参加者 約350名
自主製品販売・バザー・ステージ・体験・ゲームコーナー
- (2) 地域バザー・公民館まつり等への出店・交流
6.30 あさふれあいコンサート
10.20 清心幼稚園バザー
10.26 秋のグリーンフェア

10. 27 協同診祭り
 11. 3 区民祭り
11. 9 祇園西公民館祭 広北まつり 祇園小バザー
 11. 10 沼田ふるさとまつり
 11. 24 沼田福祉フェスタ
 11. 30 邇沙門福祉フェスタ
- * くれよんマーケットの運営 (毎週火~木 11:00~14:00)
利用者が店員になりマーケットを企画・運営しました。
- * あさみなみパーカッション隊の活動
- 7/16 医療生協中国ブロックオープニングセレモニーで
演奏 於 広島プリンスホテル
- 12/9 祇園小4年生との交流演奏 於 祇園小体育館
- (3) オープンあさみなみ (通所事業所体験会) の実施
7月 24日(水)・25日(木)・26日(金)・29日(月)・30日(火)
7月 31日(水)・8月 1日(木)・2日(金)・5日(月)
特別支援学校へ呼びかけ、体験希望者を募り、関心のある通所事業所で体験していただきました。
- (4) 地域団体やボランティアグループ等の視察研修の受け入れ
- 北特支 PTA 地区会 6/24 保護者 27名
祇園小学校 2年まち探検 6/19 20名
安佐南中職場体験 6/5. 6 中3 3名
いでしたクリニック 6/12 DR. NR 4名
北特支教員 7/23 教員 15名
祇園中職場体験 7/10. 11 2名
県立特支中学部 9/18 13名
市立特支高等部 1.2年保護者 12/13 4名
県立特支高1 1/28 生徒 8 教員 4
その他、個別の見学も受け入れ
- (5) 大学・専門学校からの実習受け入れ
文化学園大学保育科実習 8月 9名 3月 9名
- (6) 地域交流スペースの利用
祇園公民館手話グループ 8月~12月
祇園学区民生委員・児童委員協議会
HanoHano(祇園小学校木曜日放課後活動)

あさ作業所 2019年度（平成31年度）事業報告

<全体総括>

今年度は多機能型事業所（生活介護・就労継続B型）として、より一人ひとりのニーズに寄り添える活動を目指しました。就労継続B事業は静かな環境で作業に集中できるように配慮し、生活介護事業については下請け作業も継続しながら作業だけではない余暇活動にも注力しそれぞれ必要としている支援、プログラムを提供しました。それにより一人一人に合った支援が提供できたかと思います。

また高齢期の利用者の方たちには、歩行中の安全配慮に努めたり、活動内容に簡単な農業作業を取り入れるなど、メンバーのペースや生活の楽しみなどに繋がるような支援を行いました。今年度は新たに1名の利用者が介護保険のデイサービスとの併用利用が始まり今後も介護保険関係機関と連携を図りながら、高齢期の支援の在り方を検討していくことが課題となります。

今年度はあさ作業所に長い期間通所された高齢メンバーが病気により亡くなるということがありました。終末期には職員が家庭に訪問したりメンバーのビデオメッセージを作り家庭で観てもらうなどの支援を行いました。高齢期のメンバーが多いあさ作業所は今後、今回のようなケースが出てくると考えられるので終末期の対応や支援も考えていく必要があると思います。

次年度あさ作業所は、働くことを中心にしながらも、家族の協力を得ながら、日帰り旅行やレクリエーションなど余暇活動を企画して、できるだけ様々な体験ができる考え支援していく必要があると思います。

1、作業

軽作業班 室内作業：ヤマサキの試供品・ペットボトルシール貼り・
封入・針・おりづる解体作業 その他

室外作業：公園清掃・緑道公園清掃・配布・納品

(室内作業)

今年度後半からヤマサキエッセンス試供品が減産となり仕事量が減りました。メンバーほぼ全員が参加できていた作業なので今後は別の全員が参加できる新規作業の開拓を検討していきます

おりづる作業は、どのメンバーも関われる作業であるので、量を増や

し行っています。メンバー全員が参加できる作業なので来年度も継続して行います。

(室外作業)

安川緑道清掃は年間を通して請け負い、週1回から2回の作業量で、安定して取り組むことができました。配布作業もそうですが、夏場の暑い時期（7、8月）には熱中症対策のために、メンバーが活動できない時期がありました。今後も夏場の外活動については、検討課題であります。

縫製班（自主製品）

なんでもマットを中心にして、約1,000枚製作しました。市就労からの注文が主であり、中元・歳暮・安佐動物園等から受けています。年度後半には手作りマスクの生産を始めました。クレヨンマーケットで販売しましたが、すぐに品切れになりお客様から次回の入荷はいつかの問い合わせを多数いただき好評に販売することができました。また新規に「ヒラオカユニ」という縫製会社から新規作業を受注しました。

店舗班（くれよんマーケット）火・水・木曜日開店。

祇園地区にチラシを配布したためか徐々に新しいお客様が増えて来たように思います。子供連れの若い世代の客が増えて来て商品の問い合わせも頂くようになりました。週替わりでメンバーにもショップ店員をお願いし、販売員の仕事を楽しんでいる様子がうかがえます。

就労継続B型（Bチーム）

少人数で作業することができ、落ち着いて作業に取り組むことができています。メンバーからもその声が挙がっています。Bチームの中には、若い比較的障害の軽い方と65歳以上の方（高齢に向かう方）とが所属しており、それぞれに応じた作業内容の検討を課題に挙げ対応してきました。

高齢期に向かう利用者の支援として、これまでと同様の作業内容に創作活動（塗り絵、工作）や、簡単な農業作業を取り入れてきました。しかし年齢的に体力面の衰えが見えるメンバーがいるためプライドを大切にしながら、今後の活動内容を考えていくことが検討課題となっています。

[利用者工賃]

ボーナスを2回支給する事ができました。ボーナス確保のために、仕事部会と調整しユニオン事業の取り組みを重点的に行いました。

2、土曜開所

メンバー会で開所日の内容を話し合い、内容を決めました。

10月には日帰りバス旅行で、三次に行きました。今回は、全員参加を目指し準備を進めましたが、費用は積み立てとしましたが、いろいろな理由で参加できないメンバーもいました。しかし全員外出となると職員含め50人以上の集団になり、行動に時間を要することや、安全面での配慮など今後の行事の持ち方が課題になります。

2019年度 開所日行事

4月	春のくれよんまつり	10月	カラオケ大会
5月	カラオケ大会	11月	区民まつり
6月	七夕会	12月	クリスマス会
7月	創作、DVD鑑賞	1月	カラオケ大会
8月	縁日を楽しもう	2月	スマジ交通ミュージアム
9月		3月	bingo大会

行事内容をメンバー会で集約し、実施しました。メンバーから意見の多かったスマジ交通ミュージアムにも今年度はいきました。

3、体力づくり、健康維持

- ・看護師が毎朝検温を実施。必要なメンバーには血圧測定実施。
体重測定（月1回）
- ・健康診断の結果に基づいた健康相談を必要なメンバーに実施。
- ・週1回ウォーキング実施。（作業の関係で確実には実施できないこともあった）

4、利用者の動向

<生活介護事業>

7月 1名 退所。 24名（定員20名）

9月 1名 受け入れ。 25名（定員20名）

9月 1名 受け入れ。 26名（定員20名）

<就労継続B型>

・4月 1名 受け入れ。 12名（定員10名）

長期欠席者へは、電話での対応や訪問し通所への誘いかけを行いました。

5、ケース検討会

ケース検討会を2回／年おこないました。支援計画の評価を職員会議で行い支援目標の達成状況などを話し合い、必要があればケースの再検討などを行いました。

あさ作業所 利用者状況

	実利用日数			述べ利用人員		
	生活介護	就労継続B	生活介護	就労継続B	生活介護	就労継続B
2017	254	254	4,874	2,165	19.2	8.5
2018	252	252	5,381	2,268	21.4	9.0
2019	254	254	5,690	2,558	22.4	10.1

あさ作業所 月間利用者推移(生活介護)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	21	21	23	19	22	23	21	22	20	19	22	254
述べ人數	477	461	457	502	419	478	518	491	488	444	440	515	5,690
平均利用者数	22.7	22.0	21.8	21.8	22.1	21.7	22.5	23.4	22.2	22.2	23.2	23.4	22.4

あさ作業所 月間利用者推移(就労継続B)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	21	21	23	19	22	23	21	22	20	19	22	254
述べ人數	231	226	232	250	193	200	220	210	203	192	187	214	2,558
平均利用者数	11.0	10.8	11.0	10.9	10.2	9.1	9.6	10.0	9.2	9.6	9.8	9.7	10.1

あさ作業所 利用者工賃

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	賞与(2回)	1月	2月	3月
生活介護	140,635	123,075	129,585	148,084	100,010	117,830	133,145	139,470	132,795	135,000	114,750	122,195	150,725
平均	6,191	5,606	5,955	6,785	4,535	5,423	5,912	5,965	5,987	6,103	4,955	5,220	6,728
就労継続B	73,975	64,945	72,340	79,090	47,655	54,725	62,505	67,570	62,300	86,000	53,175	55,795	67,930
平均	6,725	6,035	6,548	7,276	4,691	6,020	6,535	6,757	6,752	8,968	5,403	5,736	6,745

かろかろ 2019 年度（平成 31 年度）事業報告

総括

まず建物については利用者が増えたこともあり、使い方によっては狭く感じることがありました。各フロアでテーブルの位置を工夫しながら、活動ごとに調整しました。どうしても死角になってしまう箇所があるので、安全面への配慮は継続的に必要でした。また、点検により破損部分の修繕と食堂のワックスがけを行い、できるだけきれいに使う事の大切さも改めて感じたところです。3階で活動するグループ（以下A班という）と2階で活動するグループ（以下B班という）は継続し、その日、その時の状況で必要な支援を日々検討、調整したことで、それぞれのペースで過ごすことができ、全体的には安定感がありました。

大きな活動として日帰り旅行を実施しました。今年度は予定通りB班のみで「三次もののけミュージアム」へ行きました。他事業所からのフォローもあり、楽しい時間を過ごせました。

作業等の生産活動では支援業務終了後に委託作業の仕上げ以外の時間を作るために試供品貼り付け作業を半分の量に減らす一方で、新たな仕事と自動販売機の設置を行いました。

個別支援計画は来期を意識して、従来のものを少し深められるように、モニタリングを行い、その内容を読んだときに「本人の姿が見える」ことを意識して作成するように努めました。またそれに付随するように、他の支援機関（居宅介護事業所、短期入所等）とのやりとりも増え、互いにつながることや相談員等を交えた会議により、家族との接点も増えたのではないかと思います。

3月に入り、新型コロナウイルスが地球規模で広がりを見せ始めたところで、次年度に入っています。家族からは不安の声が多くあり、今冬のインフルエンザの大流行も合わせ、感染症対策について真剣に考える機会となりました。

職員とメンバーの動向

1. 職員体制

所長が異動により交代、副所長、看護師、生活支援員6名（内2名が新入）、その他職員5名という体制でスタートしました。年度途中での退職等あり、次年度を見越しての増員含め、年度末は職員数は14名（職種問わず）になりました。改めて職員（支援者）数の安定が現場では重要で、その上で個々が仕事に対する高い意識が求められることが認識できました。

2. 新規利用者等

4月から、特別支援学校高等部卒業生が2名、新たに利用を始めました。見学者数名、特別支援学校から4名（内2名が次年度利用者として検討）ありました。

事業に関する事項

1. 作業について

◆ 自主製品

縫製は引き続き、あさ作業所と連携し、“なんでもマット”の制作をしました。担当の利用者が制作の主力の一人となっており、本人の特性も活かせているようです。木工、羊毛フェルト、牛乳パック粘土については、バザー等で販売する目的と、個別支援の一環として一人の利用者さんが集中してその人らしい作品を作るということや協同で物を作ることに取り組みました。特性や好きな事を活かし歌を歌いながら活動することで、楽しさや満足感、達成感も感じられるような関わりに努めることでたくさんの笑顔を見る事ができたように思います。

◆ 委託軽作業

前年から継続のヘアトリートメントの試供品貼りと、横山精密からの部品加工作業を行いました。特に前者は受注数を検討した上で減らし、折り鶴解体を新たに取り入れました。作業の難易度は取り組み方を工夫することで今の利用者にマッチしている印象です。工賃についてはその原資が法人全体の課題となっていたこともあり、各事業所で見直し、全体で検討した結果、来期からシステムや基準を変更することとなりました。作業に変更がない分、どのくらい受け入れて頂けるかが課題になるかもしれません。

◆ ショップ、パン販売、パン配達

くれよんマーケットでの販売は新たに加わった利用者も取り組み始め、それぞれの特性に合わせた接客を目指したこともあり、順調だったようです。外部からの来客も徐々に増えているようにも感じています。パン配達、パン販売も昨年度と同様に取り組みました。それぞれ予定を伝えたり、意思確認をしておくことで利用者もスムーズに動くことができていたようです。喜びや楽しみを共有するという点で、今後は参加できる利用者の幅を無理せずにどれくらい広げられるかを検討していきたいところです。

2. 作業以外の活動

◆ 体力づくり及び維持

散歩（外出）や室内レクリエーションを行い、引き続き体を動かす機会を設けました。イオンモールやコーナンでの買い物、安神社、近隣遊歩道や公園へ行く等、近所を歩く、春日野公園や竜王公園まで車で行き、広い場所で歩いたりボールを使って運動することが主な内容です。

室内レクリエーションでは、サッカー・ボーリングや魚釣りゲームなどいろいろな動作ができるようなものを取り入れ、楽しく体を動かせるように工夫しました。すごろくやトランプ、かるた取りなどルールのあるものも行い、必要な支援を用いることで、利用者は楽しめていた印象です。

◆ 音楽療法（2グループ 年合計30回）

音楽療法士の指導の下、楽器演奏、歌、ダンス等のセッションを行いまし

た。導入から終結まで決まった流れの中で、季節に合わせて少しずつ違うこともあるという活動は、現状の利用者には合っているようです。療法士からのフィードバックも継続され、職員間で共有しています。予算上、回数を増やすことが難しいため、職員だけでできるような取り組みを検討しても良いかと思っています。

◆ 創作、音楽

創作は月1回、できるだけ季節感のある題材を選んで行いました。個人で作ったものを集めて大きな作品にしたり、入口の壁に展示もしました。またお菓子づくりなど、形に残らないものも取り入れることで幅が広がったようにも思います。

B班は引き続き週1回音楽タイムを設けています。職員のキーボード伴奏で、半日みんなが好きな歌を思い切り歌って過ごせています（A班は音や音楽にこだわりや波があり、定期的な設定が難しい状況です）。

◆ 土曜開所 別表①の通り実施しました。

3. 健康管理、身体機能の維持について

- 看護師による検温（毎日）、体重測定（月1回）を実施しました。また、必要な利用者については、血圧測定も毎日行いました。
- 前年度までと同様に、理学療法士に来ていただき、新しく加わった利用者や前回から間が空いていたり、身体的な動きが気になる方を対象に、年度初めに計画し、身体の状態や、運動についてのアドバイスを共有しました。
- 口腔ケアや爪のカット等も継続的に行いましたが、特性上難しい場面もありました。

4. 利用者の工賃について

今年度も参加給1日160円（半日利用は80円）を支給しました。

別表① 2019年度土曜開所

	内容	場所	参加人数
4月	春のくれよんまつり	くれよんマーケット周辺	24名
5月	バーベキュー大会	かるかる棟他	28名
6月	ボーリング大会	プローバ	28名
7月	カレー作り	かるかる食堂	28名
8月	音楽フェス	かるかる棟	26名
9月	運動会	本部棟食堂	28名
10月	ハロウィーン	かるかる棟	28名
11月	区民まつり	安佐南区民文化センター	28名
12月	クリスマス会	安佐南区福祉センター	30名
1月	新年会	かるかる棟	26名
2月	カラオケ	プローバ	26名
3月	お疲れ様会	かるかる棟	28名

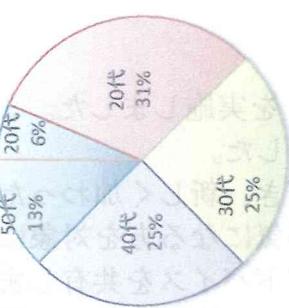
かろかろ 利用者状況

利用者動向(当年含む過去3年)

	実利用日数	述べ利用人員	平均／日
2017	254	5,801	22.8
2018	252	6,637	26.3
2019	254	7,047	27.7

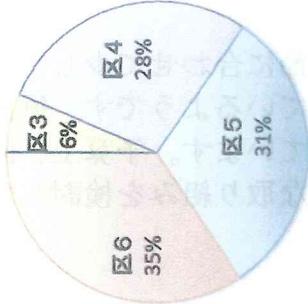
年代別(2019年度末)

年代	人数
10代	2
20代	10
30代	8
40代	8
50代	4
60代	0
合計	32



区分別(2019年度末)

区分	人数
区1	0
区2	0
区3	2
区4	9
区5	10
区6	11
非該当	0
合計	32



かろかろ 月間利用者推移(2019年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	21	21	23	19	22	23	21	22	20	19	22	254
述べ人数	584	582	583	668	536	620	611	599	541	570	532	621	7,047
平均利用者数	27.8	27.7	27.8	29.0	28.2	28.2	26.6	28.5	24.6	28.5	28.0	28.2	27.7
契約数	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32.0

かろかろ 利用者工賃(2019年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	賞与	9月	10月	11月	12月	賞与	1月	2月	3月
工賃合計	90,320	90,400	90,400	107,648	82,400	31,000	88,800	95,840	92,800	84,000	31,000	87,440	82,000	96,080
平均	3,248	3,262	3,256	3,706	2,921	1,409	3,151	3,608	3,253	3,416	1,240	3,068	2,929	3,404

アンダンテ 就労継続B型事業

2019年度（平成31年度） 事業報告

全体的総括

就労継続B型事業所は、福祉的就労の場の役割があり、屋内外のいろいろな作業を提供してきました。利用者は、一般就労へ向けて自分の働く力を持つための足掛かりとして利用している人、工賃を稼ぐ目的の人、又は、生活リズムを保つために通所する人、社会の中の行き場として利用されている人等、いろんな目的を持った人たちが通所されています。中には家族が通所を希望しているからという人も数人おられます。

その一方で、病気故の体調の不安定さや、障害があって人との関りに困難を抱える人が多く、安定した通所が難しい人が多いのが現状です。

職員は、利用者が「働く場」として時間を守ること・指示通りに作業すること、ゆっくりでいいので丁寧に作業をすること、社会のマナーなどが身につくように声掛けを行ないました。また、個別支援計画を利用者と共に作成し、目標や通所目的の確認、生活の困りごとの相談にのるなど、面談をして取り組みを行ないました。

就労支援については、支援センターとの関りで、A型事業所への体験をされている方が一人利用されていますので、就労に向けて力がつくように支援をしています。

課題としては、利用者がアンダンテで働く喜びや意義を感じてもらっているか、一人一人が自分にとってふさわしい仕事になっているかを丁寧に検証していく事です。又、通所日数が少ない人への取り組みなどの問題があります。

事業に関する事項

【軽作業】

軽作業においては、多種多様な作業を行ないました。納期の曜日が固定化したもの・季節や時期が限定しているもの、急ぎのものなど、15種類以上の作業を請け負ってきました。しかし、11月には作業が減ってしまい、新規の提供先を探しました。3月には新型コロナ感染症の影響で部品供給がなくなり、作業はさらに減ってしまいました。

年度中盤までは、利用者がどの作業をするかを職員が決めており、利用者の希望を優先することが少ないと状況がありました。これは作業の難易度に応じて、利用者の力量を考慮したことや納期のことを考慮した策でもありました。

しかし、利用者が自主的に作業に取り組むという成長を阻み、就労への意欲

低下を招いているのではないかと、職員間で検討し改善をする取り組みをしました。

作業の流れや、工程を知ってもらうため、ボードに作業名・会社名・納入日・量・納品日を書き利用者と職員とで共有しました。軽作業以外のパン工房、緑道清掃の仕事は募集欄を設け希望者は自分で名前を書くようにしました。その結果今まで軽作業しかしなかった人がパン工房や清掃の仕事にチャレンジするようになりました。また、今まで、職員しかしなかった検品を利用者にも取り組んでもらったところ、丁寧に正確にできていました。ただし、最終確認は職員が責任をもち行ないました。

作業全体が見えてくることにより、意欲がでたり別の作業をする人のことを考えられるようになることを今後も期待しています。

【緑道公園清掃】

屋外での作業は地域の人とふれあう機会でもあり、平均して3～4名が行ないます。なかには緑道清掃をライフワーク的に考えている利用者もいて、この活動だけの為に通所しておられます。清掃時には、多くの地域の方が声をかけて下さり、やりがいや意義を感じられるようです。職員にとっても地域との交流の場だと感じています。課題は、季節や天候に左右されがちで、作業する人が気候の良い時には多く暑い時期には少なく、ばらつきがあることや秋の作業量が増えた時期には時間が足りない時があるので工夫していく必要があることです。

【パン製造】

シフト制で、数人の利用者がパン製造にかかわっていたが、体力の衰えや、体調不良でできなくなってしまった。募集をしたが、応募する人はいなく、職員だけで製造をすることもあった。今シフトに入っている利用者は工賃を上げたところモチベーションが上がり少しづつ作業日を増やし、時間も長くしていくことが出来た。しかし、無理をしないよう体調の変化には気を付けている。今年度は新商品の開発を一緒におこなった。そのことでパン作りの魅力や達成感が得られたようだ。今後の課題はパン作りに多くの利用者がチャレンジしてくれるようになることとシフトに入っている人のスキルを上げることです。

【パン販売】

シフト制で限られた数人がしています。たくさんの利用者に関わってほしく、声をかけますが、対人が苦手な方、計算が苦手な方、理由は様々ですがシフトの人数は増えません。現在、シフトに入っている人は、もともとコミュ

ニケーションが苦手の人でしたが、販売を続けているうちに苦手だったことができるようになり、今では、パンの説明や接客がスムーズにできお客様から「計算が早いね」と言われ励みになっているようです。課題はどの利用者も意欲的に取り組めるように支援することです。

【チラシ配布】

利用者から希望を聞きシフトを組んでいます。今年度も木・金の週2回、利用者2名と職員1人とで近隣地区へ配布をしました。暑い時期には体調への配慮が必要です。

【自主製品】

チュールタワシとデコパージュせっけんを作り、市就労・クレヨンマーケット・祭り・バザー等で販売しています。関わる利用者さんは5人。年々スキルは上がっています。

*工賃について

平均工賃は、4,431円でした。利用者の利用日数にばらつきがある為、平均工賃が少なくなる傾向があります。授産収入の減少に重なったこともあります。5000円以下の平均工賃になり支援費の基本報酬が昨年度より落ちてしまい運営にも影響してきました。

今年度は夏のボーナスは出せましたが、冬のボーナスは、職員間での取り組みが遅く話し合いをじっくりしなかったため、利益が出せずに法人の授産積立金を取り崩して支払いました。金額は少なく利用者をがっかりさせてしまいました。授産会計の收支を見直しましたが、昨年に比べて軽作業の受注が激減していたのとパンの純利益が赤字になっていたことが要因と考えます。次年度は、どのような方策をして授産収入を増やしていくか、利用者の工賃を保障していくかが重要で急務の課題として残っています。

*利用者の動向

- ・新規契約者 3名 退所者 3名 亡くなられた方 2名
- ・契約者数 34名
- ほぼ毎日通所 16名 週に2, 3日 7名 週に1日 4名
- 月に1, 2日 1名 年に6日～11日 2名 それ以下4名

アンテナテ利用者状況

利用者動向(過去3年)

年度	実利用日数	延べ利用人数	平均/日
2017年度	2,54	5,263	20.7
2018年度	2,51	5,514	22.0
2019年度	2,50	4,061	16.2

* 月間利用者推移

年代別(2019年度末)

年齢	通所日数		契約者34名
	年代	人数	
20歳代	3名	16名	
30歳代	9名	7名	
40歳代	11名	4名	
50歳代	6名	1名	
60歳以上		2名	
		それ以下	4名

2019年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所日	21	21	21	23	19	20	22	21	21	20	19	22	250
延べ利用者数	347	366	349	353	286	327	366	354	320	341	330	322	4,061
平均利用者数	16.5	17.4	16.6	15.3	15.1	16.4	16.6	16.9	15.2	17.1	17.4	14.6	16.2

2018年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所日	21	22	22	21	18	23	22	22	20	20	20	20	251
延べ利用者数	377	367	399	415	396	325	409	423	337	339	317	344	4,448
平均利用者数	18.0	16.7	18.1	18.9	18.9	18.1	17.8	19.2	16.9	17.0	15.9	17.2	17.7

＊ 年度区分

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月合計	113,425	118,750	120,900	124,450	95,925	114,200	131,000	127,275	113,200	114,850	110,200	120,000	1,626,175
平均	4,205	4,241	4,478	4,787	3,837	4,392	5,038	4,895	4,354	4,254	4,081	4,615	4,431

＊ 年度区分

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月合計	124,900	145,625	142,000	153,875	146,300	113,000	143,375	156,525	118,450	117,250	104,050	119,225	1,849,575
平均	7,347	7,664	7,100	7,694	7,700	5,947	6,827	7,115	5,384	5,330	4,524	5,419	6,504

工房とも 就労継続B事業

2019年度（平成31年度）事業報告

総括

幅広い年代、様々な障害の利用者が増え、作業スペース（昼食スペース）が狭くなり、歩行が難しい利用者にとっては危険な場面もありました。また、利用者同士のストレスが原因で衝突する事もありましたが、お互い離れる場所がなく、当事者や周りの利用者にも精神的に負担のかかる状態になりました。

高齢の利用者は、生活面での機能低下がみられ、家族の支援が難しい状況にある利用者に関しては、通院の同行、書類の整理等の支援も必要となりました。

しかし、「ボーナス作戦」に関しては、目標金額の設定を行い、夏おくりまつりでは工房ともとして出店も行いました。冬のボーナスの金額に対しての喜びとともに、皆で何かをしたという達成感がありました。

製菓については、利用者と一緒にイベントに参加し販売を行った。直接販売することで、お客様からの温かい言葉を頂いて、利用者の日々の作業への励みになった。また、菓子詰め合わせの「ともともギフト」の販売に力を入れました。

軽作業は、作業人数が増えたにも関わらず作業量に変更がない為、単発の作業も受けたが、難しくて利用者がほとんど作業できませんでした。軽作業に関しては今後の課題です。

運営について

1. 職員体制

管理者（兼務） 1名【正規職員】

職業指導員 2名【正規職員・嘱託職員】

生活支援員 1名【正規職員】

2. 会議の開催

- 事業所内会議

必要に応じて職員会議を開催したが、集まれない場合は個別で話をした。

また、文章にして回覧にする等工夫をしました。

3. 研修への参加

- 法人内研修

- きょうされん主催の研修、会議

- 地域社会福祉協議会の研修・会議

事業について

1. 利用者について

- 定員 20名中、2019年度終了時在籍 16名

- 内、週3回の利用が1名、週4回の利用が1名

2. 作業活動

製菓作業

【委託】(手数料 0%~25%)

ふれ愛プラザ(1回/週) 市就労支援センター (1回/週)

共立病院売店(1回/週) 個人 (1回/月程度) 児童デイきらり (1回/月)

※ 3月より受注量減

安田大学売店 (1回/月) サムエル未来こどもの園 (1回/月)

※ 3月コロナウィルス拡大防止の為納品なし

【法人内委託】

くれよんマーケット (1回/週: 手数料 20%) 福祉センター他 (1回/週)

その他バザー (地域バザー・特別支援学校文化祭・区民まつりなど)

【販売】

・IGL 福祉専門学校・・・週 1回 (金曜日 12:20~13:00)

アンダンテのパンも一緒に販売する事で、集客にも繋がり、3,000円前後
の売上でした。※コロナウィルス拡大防止の為3月販売なし

・その他

月	イベント名	参加利用者	備考
4	春のグリーンフェア	2名	中央公園自由広場
	中央メーデー	2名	中央公園
6	ハートフルフェスティバル	2名	CLiPひろしま
	安佐ふれあいコンサート	1名	祇園公民館
8	きらり夏のコンサート	2名	筒瀬福祉センター
10	秋のグリーンフェスタ	2名	植物公園
11	沼田ふるさとまつり	2名	沼田公民館
	伴福祉フェスタ	2名	沼田公民館
12	毘沙門福祉まつり	2名	ふれあいセンター絆
	損保ジャパン社内販売	1名	損保ジャパン

※中止になったイベント 高齢者デイサービスでのイベント

児童デイサービススプリングコンサート

軽作業

株式会社ヤマサキ：ミスも少なくなり、最近では納期前日までに完成できる様
になりました。今後の作業量については調整中。

3. 作業以外の活動

開所日

4月 くれよんマーケットまつり 参加人数：10名	10月 ナイスハートスポーツ交流会 参加人数：11名
-----------------------------	-------------------------------

5月 ひろしま美術館 参加人数：11名	11月 区民まつり 参加人数：9名
6月 ヌマジ交通ミュージアム 参加人数：13名	12月 仲間企画クリスマス会 参加人数：12名
7月 創作活動(夏おくりまつり作品作り) 参加人数：12名	1月 岡崎神社へ初詣 参加人数：9名
8月 作業(連休明けの為) 参加人数：9名	2月 避難訓練&DVD鑑賞 参加人数：10名
9月 カラオケ 参加人数：13名	3月 ビンゴ大会 参加人数：12名

ダンス 4名参加(月2回)

パーカッション 2名参加(月2回)

4. 利用者工賃について

- ・ 1日の作業時間が4時間なので、休まず通所する利用者は、軽作業のみの人で7,500円前後、製菓を主にする人で10,000円をやや上回るくらいの工賃でした。
- ・ 2回ボーナスを出す事ができました。

工房とも 利用者状況

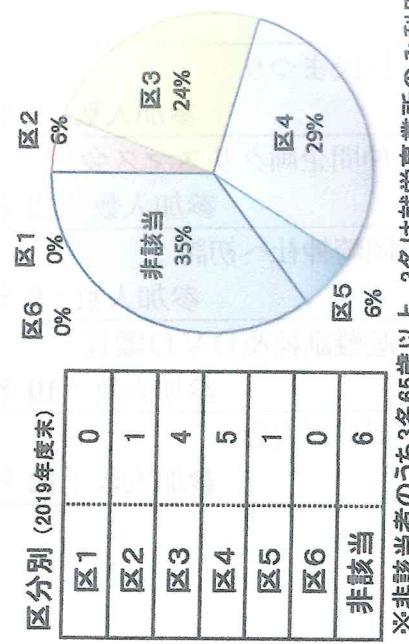
利用者動向(過去5年)			
	実利用日数	述べ利用人員	平均／日
2015	255	1,957	7.7
2016	252	2,343	9.3
2017	255	3,008	11.8
2018	251	2,972	11.8
2019	252	3,279	13.0

年代別 (2019年度末)

年代	人數
10代	2
20代	4
30代	4
40代	2
50代	1
60代	4



*60代以上の中1名は要介護3



*非該当者のうち3名65歳以上、3名は就労事業所のみ利用

工房とも 利用者工賃(2019年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	22	21	21	23	19	20	23	21	21	20	19	22	252
述べ人数	279	274	288	292	242	258	270	283	277	276	255	285	3,279
平均利用者数	12.7	13.0	13.7	12.7	12.9	11.7	11.7	13.5	13.2	13.8	13.4	13.0	11.8
契約人數	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16

工房とも 利用者工賃(2019年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	賞与	1月	2月	3月	合計
工賃合計	107,725	104,775	110,575	110,700	92,350	64,000	91,875	103,585	107,885	104,295	111,000	98,805	91,275	101,755
平均	6,733	6,548	6,911	6,919	5,772	4,000	5,742	6,474	6,743	6,518	6,938	6,175	5,705	6,360

* 平均=工賃合計/実人數

サポートセンターあしたば
(居宅介護事業・重度訪問介護事業・移動支援事業)
2019年度 事業報告

全体総括

障害のある人たちが、住み慣れた地域で支援を受けながら心豊かに生きていくように、一人ひとりの思いや願いを大切にしながら支援をしました。個別支援計画を基に、支援センターや法人内事業所・関係機関と連携をし、家族や生活環境の把握も行ない充実した支援内容となるよう努めました。また、利用者の障害特性の理解を深め本人が持っている可能性や強みを生かし共感しあう活動を通して精神的安定や自立につながる支援を心がけました。

1. 利用者・職員について

*利用者 78名

- ・ 移動支援のみ 56名 ・ 移動支援+居宅介護 15名
- ・ 家事援助+通院介護 4名 ・ 身体介護のみ 1名
- ・ 重度訪問介護 2名

*職員体制

管理者 1名（せせらぎ兼務）

サービス提供責任者 2名

パート職員（ヘルパー兼務） 2名・実働ヘルパー 38名

2. ヘルパーミーティング

3月16日（土）10：00～11：30

予定をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為に中止
書面で内容を送付する。

内容

・事務所からの連絡

来年度の職員体制・報告書記入の説明・注意事項など

3. 事業に関する事項

ヘルパーからの活動実施報告書から、支援の振り返りや改善点を拾い出し職員とヘルパーとで検討をし、改善点の検討をしたり支援方法の工夫をして実践につなげました。また、利用者の中で必要性がある人には、カレンダー様式の予定表を配布して自分自身や家族が1ヶ月の予定の見通しが持てるようにして精神的な安定を図りました。

(1) 居宅介護事業（身体介護・家事援助・通院介助）

ひとり暮らしや片親家庭・家族の高齢化、介護力の低下での利用が挙げられます。利用者一人では難しい部分や家族だけでは抱えきれない部分を支援することにより、本人の力をつけ家族の負担を軽減しながら、自立生活や安定した生活へつながるように心掛けました。

通院介助では、本人の治療に対する思いや症状が確実に伝わるよう支援しました。健康管理や社会復帰に向けての支援にもつながっています。

◆ 共同生活援助重度障害者居宅介護

支給決定を受けたホームあたた利用者2名の支援を夕方毎日と休日の日中にヘルパー派遣をしました。ホーム職員と連携を取りながら支援内容や対応を検討しました。他害のある利用者の危険回避、入浴介助やトイレ介助の全介助・口腔ケア・整容・薬の塗布など利用者への細やかな支援に努めました。

ヘルパーの支援を継続して受けることにより、本人の可能性が育ち成長を感じることもできました。

(2) 移動支援事業

* 余暇支援

利用者の思いを大切にすることを心がけて余暇・外出支援、社会参加への充実に努めました。NPO法人はなみずき企画のグループ活動に参加される利用者のより良い余暇活動となるように、はなみずきと連携して支援の充実に努めました。

ヘルパーと1対1での活動を希望される方は、マイペースで自

分の時間を満喫され、心地よい時間を過ごされています。時には、ヘルパーに悩み事を話すことで精神的な安定にもつながっています。

* 通院支援

関係事業所と連携して本人の様子や症状を医師への確実に伝達できるように連絡ノートなどを活用して健康維持ができるよう支援しました。

* 送迎支援

自宅とスクールバス送迎地点・日中一時事業所の送迎・ショートステイせせらぎへの送迎・ダンス、パーカッショングラブの送迎、グループホームからの帰省時の送迎など30分～1時間の短時間支援も可能な限り行なっています。平日毎日行っているケースもありほとんど職員対応で回しているのが実情です。朝の送迎支援は時間外勤務となるケースもありました。

(3) 重度訪問介護事業

2名の利用者に支援を行ない安全に安心して活動するように努めました。利用者の思いを大切にすることを心がけて自宅での身体介護（発作時の対応・危険回避など）・余暇・外出支援の充実にも努めました。通院・リハビリの付き添いの支援も必要に応じて行い、健康維持につながるように努めました。

4. 成果と課題

職員とヘルパーとが連携して支援を行なうことができました。職員も現場に入ることで支援の把握と充実に向け検討できるように努めました。

課題として、ヘルパー（特に男性）の減少により職員が、土日祝日や朝夕の短時間にヘルパー業務に当たる日が多くあったことは昨年度とかわりません。調整業務や事務に支障が出る日もありました。男性・女性ヘルパーが1名ずつ増員しましたが、ヘルパー業務を含めた職員体制の見直しが引き続きの課題となっています。

あしたば 利用状況について (2019年度)

1. 利用者について

◆契約者 78名

* 移動支援

	男性	女性
：法人内	8	7
あさ	7	10
かろかろ	3	4
工房とも	1	0
アンダンテ	19	19
法人外	38	40
合計	78	

* 家事援助 (4月実績)

	男性	女性
：法人内	2	2
あさ	1	2
かろかろ	0	1
工房とも	0	0
アンダンテ	0	0
法人外	3	3
合計	3	8

* 身体介護

	男性	女性
：法人内	2	2
あさ	1	2
かろかろ	0	1
工房とも	0	0
アンダンテ	0	0
法人外	0	3
合計	3	11

* 共同生活援助重度障害者身体介護あたた入居者 女性2名

* 通院介助

	1
あさ	1

	3
区分2	3
区分3	2
区分4	5
区分5	1
区分6	5

* 療育手帳判定

	○A	3
あさ	40	
法人外	18	
区分6	8	

2. 従業者について

- ①職員
正規 2名 (管理者1名・サービス提供責任者 1名)
パート 3名 (調整業務1名・事務2名)

*ヘルパー業務も従事している。

②ヘルパー

	男性	女性
30歳代	0	30歳代 2
40歳代	0	40歳代 2
50歳代	2	50歳代 6
60歳代	1	60歳代 17
70歳以上	3	70歳以上 6
	6	33
		39

3. 利用（活動について）

- ①移動支援 *余暇支援 (活動時間 4時間～8時間)

- ・はなみずきのグループ活動・企画（集い・カラオケ・ボウリング・ショッピング・さをり、音楽クラブ・水カเฟなど）
- ・ショッピング・映画・カラオケなど
- *通院支援 (活動時間 2時間～4時間)
- *送迎 (活動時間 0・5時間～1時間)
 - ・スクールバスバス停・クラブ活動・通所先など
- ②身体介護
 - *自宅での入浴介助・トイレ介助・整容など
 - *発作時の対応・危険防止対応など
 - *浴室の掃除・整理整頓・調理・洗濯など
 - *医師への質問・伝達など
 - *自宅での見守り・発作時の対応・危険行為の見守り・外出など
- ③家事援助
- ④通院介助
- ④重度訪問介護

ホームあたた
共同生活援助事業
2019年度（令和1年度）事業報告

《全体総括》

昨年度以上に、利用者ご本人およびご家族の高齢化による様々な課題が露になりました。

利用者の加齢による体力低下や健康上の不安に対しては、通所先やご家庭、病院との連携がこれまでにも増して欠かせません。しかし一方、ご家族はご本人よりも先にご高齢になるので、支援の一端を担っていただくことが困難なケースが増えています。

また今年度は、利用者が亡くなるという悲しいできごともありました。

高齢になった利用者や、重大な疾病に罹患した利用者をどこまでグループホームで支えるのか、どこを限界とするのか、支えるためには何が必要なのか等々、法人あさみなみとしての今後の課題が浮き彫りになった一年でした。

1. 利用者状況（男性 12名 女性 7名 計 19名）

* 7月以降 1名減

	20～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上
男性 (人数)		1	6	4	1
女性 (人数)	1		2	4	

2. 事業内容

・職員とキーパーとのミーティング

毎月第3水曜日の午前中にキーパーやパートを含めたスタッフミーティングを行っています。利用者の健康や生活についての情報共有や、各現場から挙げられた問題点や課題の整理等を行い、スタッフ同士の連携を図っています。

また、必要に応じて、男性棟、女性棟それぞれのミーティングも隨時実施しています。

- ・各事業所との連携

主に連絡ノートを利用して、個別支援計画に沿った共通した支援を行なうと共に、日々の変化や情報共有の連絡、調整を行っています。あさみなみ以外の事業所に通所している利用者へのフォローが浅くなりがちなのが課題です。

- ・家族との連絡、調整

ご家族とも、連絡ノートや電話で情報共有を図り、帰省や利用者の月間予定の調整、連絡を行っています。生活の場であるグループホームの役割として、利用者的心身の変化や健康面の懸念にいち早く気づき、関係事業所や家庭と連携して対応するよう努めています。

- ・医療機関との連携

薬の処方や処置を的確に行ってもらうために、定期通院に職員が可能な限り同行して、医師に利用者の普段の様子を伝えるようしています。

また、入院時や緊急時には、医療機関やご家族への連絡、調整、手術の付き添い等を行いました。今年度は骨折の手術とリハビリのための長期入院が1名いました。

- ・利用者の日中対応のための世話人

昨年度に続き、日中、在室している利用者や緊急でホームへ戻って来た利用者のための支援に世話人を配置しました。

3. 職員体制

施設管理者（世話人兼務）	1名
サービス管理責任者（世話人兼務）	1名
生活支援員	若干名
世話人（夜勤者）	若干名
世話人（日中）	若干名

4. 事業に関する事項

利用者の生活が、無味乾燥な繰り返しの日々にならないよう、移動支援を利用した休日の外出や、実家への帰省の支援を行い

ました。また、クリスマス会や節分の豆まき等、季節の行事も実施しました。

健康管理として、毎日の検温、食事量や排便の有無のチェック、必要な人には血圧測定を継続して行っています。肥満傾向の利用者が多いため、給食委員会に参加し、夕食のメニューについて要望を出しました。

5. 成果と課題

生活の場としてのグループホームに求められることは多岐に渡ります。

健康管理や通所先等、関係機関との連携はもちろん、生活に潤いやメリハリを持たせること、年齢や体型に合った衣類を選ぶこと、利用者同士の人間関係の調整等々、終わりも境界もありません。そのため、絶えず業務内容を見直し、優先順位を見極めておく必要があります。

今年度の成果としては、他事業所や家庭、医療機関との連携がスムーズになったことが挙げられます。支援センターを中心に、各事業所の支援計画を共有し、年間を通して連絡を密にすることで、統一した支援を行うことができました。

課題としては、以下の2点があげられます。

第一は、全体総括でも述べたように、利用者があたたでの生活が困難になった場合、どこまで引き受けるのかということを法人の方針としてきちんと示す必要があるという点です。

第二は人材確保と育成です。夜勤が多く、しかも独り勤務という、心身をすり減らす職場のためか、職員の定着率が良くありません。特に今年度は女子棟の職員が責任者以下総入れ替えという事態が生じました。男性棟も慢性的に人手不足です。職員がやりがいを見失うことなく、気持ちにゆとりを持って働けるだけの人材確保は喫緊の課題です。

短期入所事業 せせらぎ 2019年度事業報告

全体総括

家族の緊急時対応・レスパイト・本人の生活体験など様々な役割をもつショートステイですが、本年度も家族や利用者の希望に添えるように対応をしていきました。利用者や家族の思いや願いを大切にし、安心した生活ができるように支援を行ないました。

日中活動事業所や支援センター等の関係機関と連携を取り合い、利用者・家族の信頼につながるよう努力していきました。

職員がキーパーからの聞き取りを意識的に行ない、利用時の状況や課題について支援方法などを振り返り、検討し共有し実践につなげました。

1. 事業に関する事項

利用者が家族と離れても落ち着いて心地よく過ごすことができるよう支援すると共に、自立生活へつながるよう実践しました。支援者の記録等をもとに、職員・キーパーとで情報共有し共通した支援方法や実践について相談・検討しながら進めました。

利用者の相性などを考慮したシフトをたて、トラブルが起こらないように留意しました。大きな事故やけがもなくリラックスして過ごして頂き、定期利用の方からは、せせらぎを毎回楽しみにしている声を聞いて支援者一同の励みになりました。

2. 成果と課題

成果としては、ホームあたたやあしたば職員の応援で支援していた職員体制が、来年度より夕方の入浴介助等を行なう男性2名のキーパーの雇用が決まることで、男性職員1名の夜勤で回す見通しが出来ました。しかし、緊急対応や連泊などに対して受け入れができるようになるまでの体制にはならないので今後も検討を続けていきます。

*せせらぎ 2019年度利用状況

		計画シート			その内 緊急・土日利用			*定期利用者		
*利用 件数		男性	女性	小計	男性	女性	小計	男性	女性	合計
月	2019年度	30年度	2019年度	30年度	2019年度	30年度	2019年度	30年度	2019年度	30年度
4月	32	24	31	27	63	51	0	0	0	0
5月	27	23	29	29	56	52	0	0	0	0
6月	27	20	26	30	53	50	0	0	1	家族の体調不良
7月	26	22	27	26	53	48	0	0	1	家族の冠婚葬祭
8月	22	23	23	26	50	49	0	0	1	家族の体調不良
9月	27	20	23	28	50	48	0	0	0	
10月	21	27	24	27	45	54	0	0	0	
11月	21	22	25	29	46	51	0	0	0	
12月	23	20	27	26	50	46	0	0	0	
1月	20	20	25	29	45	49	0	0	0	
2月	20	22	24	27	44	49	0	0	0	
3月	21	21	25	31	46	52	0	0	0	
合計	287	264	309	335	601	599	0	0	3	

*区分別		区分1	1	区分4	11
		区分2	5	区分5	8
		区分3	3	区分6	7

生活支援センターあさみなみ
2019年度（平成31年度）事業報告

<全体総括>

法人内での異動や新人職員配置等で、支援センターも新たな職員体制でのスタートとなり、軌道に乗るまでには時間を要しました。

今年度からモニタリング件数に変更があり3か月毎になりました。特に6月9月12月のモニタリングの回数が増えました。訪問や本人との面談の回数が増えることで、より本人の状態を知ることができ、関係者と繋がることができたことは、良い面です。しかし、回数が増えることで本人の負担になることもあり、モニタリングの回数は本人のニーズをきちんとアセスメントした上でそれに必要な頻度があることを認識しました。

計画相談については、可能な限り対応をしました。難しい場合には特定相談支援事業所を紹介したり、セルフプランで対応しました。その後も、特定相談支援事業所を補助し相談者も支援者も安心して福祉サービスを利用できる体制を取りました。

地域に対しては、広島市自立支援協議会地域部会（以下、地域部会）に参画し、「精神部会」の事務局として活動（2ヶ月毎の部会の開催、のぞみ家族会への参加）を行いました。また、その他の部会（身体・知的・就労系・児童）にも参加し、地域作りに参加しました。

基本相談を大切にし、困難な事例には関係者や専門機関、行政と共に支援を行いました。

様々な事例に対応できるように、センター内にスーパーバイザーを置き、相談員の力や質の向上に努め、より豊かな支援ができる考えました。

1 運営について

<職員体制>

管理者・相談支援専門員兼務 1名 相談支援専門員 5名

相談員 1名

計 6名体制

<事業実施曜日及び時間帯>

・月～金曜日 第3土曜日（法人開所日） 8：30～17：15

・上記の開所日・時間の他、緊急性・必要性に応じて面接訪問等実施

<会議の開催>

・支援センター内会議（委託業務として概ね週1回）

ケース検討会議、調整会議は必要に応じて開催。

毎朝のミーティングを実施し、情報共有に努めました。

<広報活動>

- ・相談支援事業周知や制度の説明のための広報誌発行は行えませんでした。民生委員や地域包括支援センター、居宅介護事業所の研修等で、相談支援事業所の説明をしました。

2 実施内容

(1) 障害種別を問わない相談支援

当事者家族からの制度利用や計画相談の依頼、困りごとの相談を中心としてはいるが、行政、地域包括支援センター、病院の相談員等、福祉や医療機関からの相談が多くありました。訪問、同行、助言等の支援を行いました。個別相談では、就労に向けての相談が増えてきています。その他、日常生活においての様々な幅広い相談があります。

(2) 権利擁護のために必要な援助の傾向

件数としては多くなく、必要に応じて司法書士・弁護士等との連携や後見依頼等について当事者を交えて行いました。福祉サービス等利用や日常生活の中で、本人の人権に関わることに着目し、モニタリングを通して見守りを行いました。

(3) ケアマネジメント支援

計画作成に留まらない基本相談の事例においても、関係機関と連携を図りながら情報共有や調整を行いました。当事者の障害特性に寄り添い面談を重ね、思いを整理し生活面での助言を行い、安心して生活できるように努めました。

(4) 障害者相談体制の充実に資する取り組み

- ・広島市障害者自立支援協議会、安佐南区地域部会（各部会、全体会、精神部会事務局として）へ参加。精神部会事務局として、前年度からの取り組みのアンケートをまとめ、報告しました。精神障害者が利用できる施設見学を企画実施しました。

(5) その他の活動状況について

- ・安佐南区地域活動支援センターⅢ型交流会（隔月奇数月開催）参加。
- ・安佐南区地域包括支援センター定例会議に参加。

障害福祉における相談支援の現状や現在の動き等について説明し、連携を図りました。

- ・区民生委員定例会に参加しました。

相談支援や障害者との関わり方について基幹相談支援センターと共に参加し、説明を行いました。

- ・のぞみ家族会（精神障害者 親の会）に参加。

- ・防災プロジェクトチーム会議出席。

研修 受講)

- ・広島県相談支援専門員初任者研修。

- ・サービス管理責任者更新研修。

- ・精神障害者支援の障害特性と支援技法研修。

講師 アドバイザー)

- ・いくせい会安佐南支部研修会。

- ・居宅介護事業所 ヘルパー研修「障害者虐待」研修。

※別紙 個別支援実績報告書について。